

➤ 研究課題名

「当院における網膜中心静脈閉塞症および網膜中心静脈分枝閉塞症の治療成績と、安全性・有効性の検討」

➤ 研究の意義と目的、方法について

網膜中心静脈閉塞症および網膜中心静脈分枝閉塞症は糖尿病網膜症に次いで発症率の高い網膜血管疾患で、高血圧、糖尿病、高脂血症などが危険因子とされています。黄斑浮腫を伴うと視力障害が生じるため、以前から網膜光凝固レーザー治療などが行われており、最近は硝子体内に注射する治療が認可されました。

今回、当院において網膜中心静脈分枝閉塞症および網膜中心静脈閉塞症と診断され、開院時 2002 年 6 月から 2020 年 3 月までに 1 年以上経過観察できた方を対象に、各治療法の予後や、安全性、有効性を調べ検討することになりました。評価項目は眼科一般的な検査結果（視力、眼圧、眼底出血の程度と黄斑浮腫の程度など）と、内服投与を含めた治療の内容、転帰です。

本研究におけるすべての研究者は、ヘルシンキ宣言および臨床研究に関する倫理指針に従って本研究を実施します。同意書の取得については、臨床研究に関する倫理指針（2008 年 7 月 31 日 全部修正版）第 4 の 1(2)②イの規定により、観察研究の場合、研究者等は被験者からインフォームドコンセント（説明と同意）を受けることを必ずしも要しないと定められています。後ろ向き研究のため、患者さんには新たな不利益は発生しません。収集されたデータについては情報の匿名化を行い、対象者を特定不能とします。研究成果発表においても、匿名化されているため、個人を規定できる情報を含みません。本研究は、倫理委員会での承認を経ており、倫理性を保つよう配慮されています。この研究のためにご自分のデータを使用してほしくない場合は、下記へご連絡ください。この研究への不参加を申し出ても今後の治療などにおいて一切不利益を被ることはありません。

本研究に関してご質問などがございましたら下記までお問合せください。

➤ 問い合わせ先

順天堂東京江東高齢者医療センター 眼科

Tel : 03-5632-3111

研究責任者：梅屋玲子